

まねきねこ

2004年秋・第2号 ヘルスケア関連団体のネットワークづくりを支援する情報誌



力を合わせて、走り続けよう

まねきねこ

さわやかな秋。運動したり、勉強したり、みんなで集まるのにもぴったりの季節ですね。各地でも、疾病や障がいと医療をつなぐ横断的な活動が活発に行われています。私たち「まねきねこ」も、ヘルスケア関連団体のネットワークづくりに、積極的に持続性をもって関わっていきます。

CONTENTS

1-2 ヘルスケア関連団体・夏の活動報告

第2回ヘルスケア関連団体関西地区交流会 in 兵庫(7月24日)

「医学教育へ患者の声を組み込む」をテーマに

あすなる会(若年性関節リウマチ患児の親の会)

サマーキャンプ in 浜名湖(8月29、31日)

患児と家族の交流を深め、難病に取り組む

第1回ヘルスケア関連団体東北・北海道地区交流会 in 仙台(9月19日)

東北・北海道地域のネットワークづくりがスタート

全国慢性頭痛友の会「頭痛」医療公開講座 in 横浜(9月20日)

最新情報も紹介される公開講座

クロースアップ第2回

大空会(関西地区口唇・口蓋裂児と共に歩む会)

代表 山口俊子

マネコとキネコの「VHonet」ウォッチング

医療のひろば 用語解説「セカンドオピニオン」

元気の象 リレーエッセイ第2回

出会いと元気をくれる、自然のなかの「山の家」

(社)呆け老人をかかえる家族の会

本部理事・富山県支部事務局長 勝田登志子

知恵の泉 HOWTO 第2回 会の運営に役立つハウツー集

会の活動や個人体験を出版するには

インフルエンザ・脳症の会/病児遺族わかちあいの会

「小さないのち」代表 坂下裕子

EVENT CALENDAR

マネコとキネコの 情報ひろば

ヘルスケア関連団体・夏の活動報告

記録的な猛暑に見舞われた今夏ですが、暑さに負けず、各地でさまざまなヘルスケア関連団体の活動が行われました。サマーキャンプなど夏ならではのイベント、また、疾病や障がいのある根拠を越え、地域でヘルスケア関連団体のネットワークを広げているという動きも活発になってきました。この夏、行われたいくつかの活動をご紹介します。

第2回ヘルスケア関連団体

関西地区交流会 in 兵庫 (7月24日)

「医学教育へ患者の声を組み込む」をテーマに

7月24日兵庫県尼崎市で、第2回ヘルスケア関連団体関西地区交流会が開催されました。さまざまな疾患や障がいに取り組み15団体21名が参加。前回で抽出された3つの課題から、今回は「医学教育へ患者の声を組み込む」をテーマに約4時間にわたって討議されました。ファイザー株式会社喜島智香子が、東京大学名誉教授開原成允氏および医学部教授北村聖氏からの提案を報告。

その後、1979年以来25年間、医療短大等で闘病体験を語り活動の場を広げている「全国膠原病友の会関西ブロック」を代表し菊池素子氏が発表。自身の体験をふまえて、患者が教壇に立つ意義や実際の反応、自称「患者講師」の育て方や成功のための10カ条など具体的なノウハウを紹介。熱のこもった質疑応答がなされました。ディスカッションでは、疾患の特殊性や患者数の少なさで機会がない場合の問題点や、看護や医療が語られることの大切さについて議論。医療の教育現場だけでなく、義務教育のカリキュラムに組み込んでいく目標を確認しました。



あすなる会2004年サマーキャンプ in 浜名湖 館山寺温泉 (8月29日～31日) 患者と家族の交流を深め、難病に取り組む

「あすなる会」のサマーキャンプが今年も浜名湖館山寺温泉で開催されました。

「あすなる会」は、若年性関節リウマチ(JRA)の子どもを持つ親の会で、JRA専門医の協力を得ながら、病気についての正しい理解を深め、学校生活や教育など子どもたちを取り巻く問題に前向きに取り組んでいます。サマーキャンプは、こうした活動の一環で、今回は、医師11名を含む76名が浜名湖に集まりました。成人した子どもを持つOB家族の参加もあり、会場には再会を喜ぶ明るい声が飛び交っていました。



サマーキャンプでは、「若年性関節リウマチとは」、「若年性関節リウマチ最新医療」、「整形外科医から見た若年性関節リウマチ」、「医師との上手なかかわり方」、「若年性リウマチのタイプ別リハビリ」をテーマとした専門医による講話や、会員の体験発表会、個別相談などが行われました。また、「二人ひとりの足に合わせた靴のカウンセリングや、「ビンゴ大会」などの楽しいプログラムも盛り込まれ、子どもたちにも家族にも、思い出深い夏休みのイベントとなったようです。



第1回ヘルスケア関連団体
東北・北海道地区交流会 in 仙台(9月19日)
東北・北海道地域のネットワークづくりがスタート



9月19日、仙台市産業情報プラザ(AER)において、東北・北海道地区のヘルスケア関連団体の交流会が開かれました。昨年のヘルスケア関連団体ワークショップに参加した東北在住のメンバーが中心となり、北海道や東北地区で活動する各団体に呼びかけて交流会開催が実現しました。初回の地区交流会ということから、各団体の紹介が中心となりましたが、その中でも、疾病や障がいに対する意識改革や、排泄の問題、高齢化、年金、後継者問題など、共通する課題や悩みが浮かび上がりました。「疾病や障がいを越えて、お互いに情報交換しながら、ネットワークの場を広げていくことは有意義である」と意見が一致し、東北福祉大学総合福祉学部の協力を得て共通のホームページを作成することや、来年早々に第2回の交流会を開くことが決定されました。

参加団体名

- あけぼの会福島支部
 - あすなる会
(若年性リウマチ親の会)
 - がんを考える
「ひいらぎの会」
 - 北のポリオの会
 - 心のネットワーク宮城
 - CILたすけっと
 - 星陵心臓友の会
 - 全国低肺機能者グループ
 - 東北白鳥会
 - 仙台市障害者スポーツ協会
 - 仙台ポリオの会
 - 日本オストミー協会
 - 日本コンチネンス協会
 - のぞみ会
 - バンダハウスを育てる会
 - ピンクのリボン
 - ふくしまップ宮城
 - 社会福祉法人ふれあいの森
 - 宮城県肝臓病交友会
 - 宮城県喉頭摘出者
福祉協会仙台支部
 - 宮城県腎臓病患者
連絡協議会
 - 宮城県脊髄損傷者協会
仙台支部
- (東北福祉大学総合福祉学部 山川敏久氏・水谷浩氏
埼玉県立大学保健医療福祉学部 高畑隆氏)



全国慢性頭痛友の会 頭痛に悩む人と家族の会
「頭痛」医療公開講座会 in 横浜(9月20日)
最新情報も紹介される公開講座

9月20日、横浜みなとみらいのランドマークタワーにおいて「全国慢性頭痛友の会」主催の「医療公開講座」が開催されました。まず、東京女子医科大学頭痛外来講師清水俊彦氏による「薬物乱用頭痛について」、続いて、慶應義塾大学神経内科教授鈴木則宏氏による「慢性頭痛をめぐる最近の話題」をテーマとした講演が行われました。メモをとりながら熱心に講演を聞く参加者も多く、講演後の質疑応答でも専門的な質問が寄せられました。

片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛など頭痛に悩む人は国民の半数近くにはのぼるとの調査もあり、生活に支障を来している人も数多く存在しています。「全国慢性頭痛友の会」は、こうした頭痛で悩む全国の仲間と交流し情報交換を行い、慢性頭痛の原因解明や治療法の確立に向けて行政に働きかけていくことなどを目的とした団体で、交流会や医療講演会、学習会などを積極的に開催しています。今回の医療公開講座も、頭痛をめぐる最新情報が紹介されるなど充実した内容で、頭痛に悩む患者や家族にとって非常に有意義な会となりました。

マネコ
「それぞれの会が
前向きに活動
しているね」

キネコ
「各地域ごとのヘルスケア
関連団体の交流会も
盛んになって
きているわ」

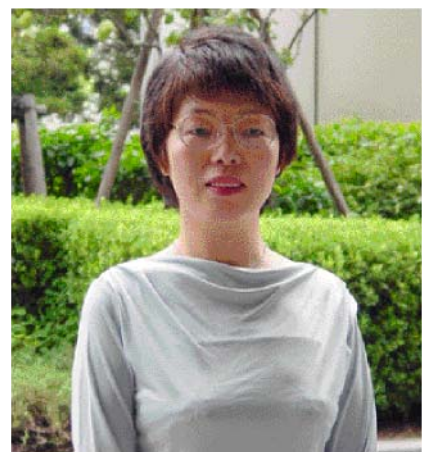


第2回

関西地区口唇・口蓋裂児と共に歩む会
大空会

代表 山口俊子

「関西地区口唇・口蓋裂児と共に歩む会（大空会）」は、ある病院で手術をともにした親たちが、術後も連絡を取り合っているところから始まり、現在は関西を中心に、医療施設や診療科の垣根を越えて精力的に活動している団体です。口唇口蓋裂は、複雑な医療の問題に加え、社会の偏見にも直面しなければならぬ先天性の疾患です。こうした困難な状況の中、「大空会」は、さまざまな人々の協力を得ながら、30年近くにわたり口唇口蓋裂の子どもたちとともに歩んできたのです。

活動の
状況

特定の医療施設や診療科にこだ
わらず、幅広い医療情報を提供

1977年「大空会」は、10名ほどの患児の保護者により発足しました。当初、同じ病院の歯科口腔外科を中心とした患者会でしたが、「多様な医師の話を知りたい。最新の医療情報を知りたい」と考える会員が増えたため、10年前に「医療機関から自立しよう」という方針を決めたのです。口唇口蓋裂の手術は、高度な技術と経験が必要とされる難しいものです。

しかしながら、手術を行う医師すべてが口唇口蓋裂治療の専門家であるとは限りません。最初の手術で完治することは少なく、十数年かけて何度も手術を繰り返す例が多いのです。また、病院によって歯科の口腔外科のこともあれば、形成外科のこともあります。さらに子どもの成長に伴い、耳鼻咽喉科や矯正歯科、言語聴覚士もかかわってきます。したがって特定の医療施設や診療科に偏らず、最新の医療情報を提供しなければ、と考えたのです。そこで分野の異なる専門家による講演会を行い、報告集をまとめました。講演や掲載をためらう医師もいましたが、「治療を選択する機会を与えてほしい、幅広い情報提供の場を

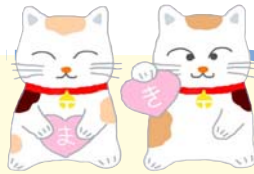
作ってほしい」と訴えて実現しました。こうした新しい会のあり方は、会員に歓迎されただけでなく、多くの医療関係者にも受け入れられるようになりました。

口唇口蓋裂に対する偏見や無理解
に対しても、積極的に活動

現在、大空会の会員は約350名です。主な活動は、年に約4回の会報発行と年2回の大きな集まり、地区会、電話相談などです。会報の発行部数は750部で医師や保健所などにも無料配布しています。春には総会と医療講演会、秋は医療講演会または会員の交流会などを開催し、医療講演会の内容は冊子としてまとめています。世話人が多忙で



なかなか交流ができない、子どもが成人すると親も離れていくなどの課題があるため、兵庫地区では毎月1回の交流の場を設けています。また、口唇口蓋裂に対する偏見をなくし、疾患への理解を求める活動にも力を入れてきました。1979年には、「口裂け女」にまつわる奇怪な話が流行しました。疾患とは無関係ですが、その漢字とニュアンス



マネコとキネコの VHO-netウォッチング

<http://www.vho-net.org/>

医療のひろば

用語解説「セカンドオピニオン」

■セカンドオピニオンとは

患者が治療法や方針を決める際に、判断材料として主治医以外の医師に治療法などの意見を聞くことをいいます。患者自身が納得の上で治療法を自己決定できるようにすることが主な目的です。最近ではセカンドオピニオン外来を開設する病院も増えてきています。



■セカンドオピニオンの仕組み

セカンドオピニオン外来を設けている病院での受け入れ方はさまざまです。患者自身が主治医とよく話し合い、現在の治療法について理解した上で、主治医からの紹介状や検査データを持参して診察を受けるのが本来の形ですが、紹介状なしでも受け入れている病院もあります。国立病院では、2004年4月からの独立行政法人国立病院機構の発足に伴い、セカンドオピニオン制度が創設されました。この制度では、同じ病院内の主治医以外の専門医から意見を聞くことも、他の医療機関の専門医に意見を求めることもでき、他院にかかっている人が国立病院機構の医師に意見を聞くこともできます。また、セカンドオピニオンは公的医療保険の中で制度化されていないため、料金体系は病院ごとに異なります。保険が適用になる病院もそうでない病院もあります。保険適用外の場合は混合診療の問題があるので、その場で検査等を受けると、その部分も自己負担になる場合があります。

■セカンドオピニオン外来の例■

●帝京大学病院

保険適用。完全予約制で面談時間は約1時間。
料金は紹介状がある場合1200円、ない場合3900円。
<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~nozomu/Second-opinion/secopi-index.html>

●東邦大学医学部附属大森病院

主治医に戻って治療が前提。料金は保険適用外で30分まで1万円(延長は30分毎に3千円)。
<http://www.toho-omori.gr.jp/opinion/>

●東京医科歯科大学セカンドオピニオン外来

1人の患者に対して1時間。料金は3万円。完全予約制。
<http://www.tmd.ac.jp/med/medhp/2ndop/1.html>

●がん総合相談センター

国立がんセンターを退職した放射線科医師が開設。
登録料1万円。相談料1回1時間、1万円。FAX、mailのみによる相談は、1回3千円。

*上記の情報は変更されている場合があります。
詳細は直接病院へお問い合わせください。

から、会員の子どもがいじめられたことがあります。2000年に、テレビで口裂け女を題材にしたアニメが放映されることを知り、東京の患者会「口友会」とともに抗議し、放映を中止してもらいました。「ハリポッターと秘密の部屋」、「レッドドラゴン」の内容にも抗議し、「口裂け女のゲーム」の発売中止が実現できました。

テレビや映画を通して間違った認識が広まると、子どもたちは平穏な生活を送ることができません。会として、社会的に行動することには一部反対の声もありますが、現実には傷ついている人がいるなら、偏見を助長するような動きに対しては患者会としては行動する必要があると考えています。こうした状況の中で社会の理解の一助になればと、絵本『ちかちゃんのえがお』を会員による作・絵により出版しました。マスコミ各紙でも取り上げられ、

広く共感を得ることができました。私たちは、産婦人科における口唇口蓋裂への理解と対応が重要だと考えています。出産時に、必要な医療情報や大空会のような患者団体の存在を知るかどうかが、その後の治療や子育てに大きくかわってくるからです。今後、さらに診療領域や学閥の垣根を越え、患者二人ひとりが適切な治療が受けられるようになつてほしいと願っています。

組織の概要

- 1977年3月 設立
- 役員 (世話人) 18名
- 会員数 約350名、
賛助会員が約50名(2004年現在)
- 年間活動費 2,232,799円
(平成15年度)



出会いと元気をくれる、 自然のなかの「山の家」

(社) 呆け老人をかかえる家族の会

本部署理事・富山県支部事務局長 勝田 登志子

TEL・FAX 076(432)1693



私は富山市内に住んでいます。車で1時間ほどの新潟県との県境に「山の家」を持っています。ここは夫の亡くなった両親が住んでいた家で、築150年くらいの茅葺きの民家。廃屋に近い状態だったものを手直しし、囲炉裏もつくって、土日になると出かけていきます。お祭りには親戚が集まり、少しですが田んぼや畑もあるので、5月の連休には孫たちが田植えをやってきます。野菜を作ったり山菜採りをしたり。そういう、人が生きていく原点のようなことやりたいなと最近、強く思うようになりました。

痴呆のお年寄りの介護をしている方々の電話相談を、富山県支部の立ち上げ以来23年間、続けてきました。昼は仕事があるので私は自宅で夜間専門。電話をかけてくる方たちは、介護そのものよりも自分のことを誰かにわかってもらいたいのです。私はただただ聴いているだけなのですが、聴いていると相手の声がだんだん、明るくなってくるのがわかるのです。それが一番うれしい。私が逆に元気をもらっているのかもしれない。

相談者は女性が圧倒的に多く、ご主人の無理解に悩んでいます。未だに「お前が介護するのが当たり前だろ」というのが現状。私はそんな方に「家出のススメ」をしています。「2、3日じやなく1週間くらい出ないとありがたみがわからないよ」って。でも長く家出するにはお金もかかるし話し相手もない。家出を勧める以上は受け入れ場所がないとだめだと思いました。「山の家」をつくったのは、そういう方たちに「いつでも使って」という想いからなのです。私は今年、定年を迎えます。時間にゆとりができるので、電話一本くれれば私もいっしょに行けるようにと考えています。私は人が好き。人がいっぱい集まってくるとうれしくて元気がわいてきます。出会いは財産。「山の家」がこれから、いろんな人が集い出会う場所になればと思っています。



マネ「のおすすめ
「やすらぎブックス」

足の疲れに

「フットシーソー」

右、左と交互にステップを踏むことにより、血行を促進し、足の疲れやむくみを緩和します。テレビを見ながら運動できるのも便利です。
(Amazon.co.jpより)

上手に「デスクライト」を選ぶ

照明は、デスクワーク

パートナー

目的を考え、慎重に選びましょう。最近、インテリア性の高いデスクライトも出ています。有名デザイナーが手がけた輸入品は機能性も兼ね備えています。最近ではインバーター内臓タイプが主流。「ジー」という音が出ず、ちらつきも抑えられています。
(家電売り場)

秋を満喫できる映像集

「紅葉 もみじ」

古都・奈良や北海道・大雪山、石川県兼六園といった名所を始め、湖畔や滝などに映える情景、落葉まで紅葉づくしの映像集です。白神山や白川郷など世界遺産の風景も納められています。二胡や尺八などの音色とともに楽しめ、心身ともにリフレッシュできそうです。

■本編約60分、
2940円(税込)

発売元・シンフォレスト



HOW TO

第2回

会の運営に役立つハウツー集
会の活動や個人体験を出版するには

インフルエンザ・脳症の会／病児遺族わかちあいの会

「小さいのち」 代表 坂下裕子



「広く多くの人に病気のことを知ってもらいたい」という思いが、出版＆販売を後押しします。

まず「書くこと」そして「売る努力」。1歳の娘との死別体験を綴った『小さないのちとの約束』、『天国のお友だち』、『いのちって何だろう(共著)』の3冊の本をこれまで出版しました。子どもを亡くした直後、小児救急の現状は社会問題という一通の投書を新聞社の社会部宛に送りました。次々と取材依頼があり記事や番組になりましたが、それらは記者やテレビ局の仕事、作品であり、どこかが違う。自分が書かなければいけないという思いが募り、出版を決心したのです。

出版が決まるまで

- 本を出版するスタイルは3つあります。
 - 自費出版…著者が出版費用を出し、自分で販売する
 - 企画出版…出版社が費用を出し、販売(書店に流通)もしてくれる
 - 共同出版…著者と出版社が、費用を分担し、両者で販売する
- 私の場合、3冊とも企画出版です。企画出版の本は出版社の商品。出版社は著者

が書きたい本ではなく売れる本を作るのです。私の場合、原稿を持って出版社を回りましたが何社も断られました。患者・家族会の場合、会の規模もポイントです。作品の質に関わらず小さな会だと販売数の点で難しい。私は最終的に新聞記者の「コネクション」で出版社が決まりました。

執筆について

原稿には編集者から60か所の修正を指示されました。書き込みが足りないのは辛い過去にたくさん蓋をしているからだと気づきました。編集者はその蓋を容赦なく開けていく。死別体験や闘病記ではそれは厳しい作業です。私は編集者の理念に共感できたので必死で書き直し、結果的にそれがセルフケアにつながりました。

出版後の戦い

できあがるとまず新聞社に献本します。これまでの記者とのつながりから多くの新聞が書評を掲載してくれました。書評は無料の広告です。期待しましたが、全然売れない。出版社に申し訳なく自分でも売ること。よほどの作家以外、著者が売るのは常識です。それでも一冊目は

初版4000部が売れ、増刷。それがなくなると廃刊と言われ、500冊を買取ることを条件に、さらに700冊増刷してもらいました。古い本は3年もすれば廃刊です。新しい本は日々出版されているのです。

本の売り方

学会の書籍売場は指定の本屋があるので、そこに頼み、取次(本の卸)に注文して置いてもらう。常に持ち歩き講演時等に自分で売る。出版はゴールではなく、スタートなのです。

よほどセンセーショナルな企画でないと出版は難しい時代です。私は価格を200円下げるために、執筆料と印税を放棄しました。疾患について広く社会に認知してもらいたいから書く。これが執筆、販売での励みになります。思います。



キネコのおすすめ
「便利商品 & 新サービス」

磨きやすい

「介護用360度歯ブラシ」

歯磨きの動作がしづらいお年寄りや障がいをもつ方にも使いやすい「介護用360度ブラシ」。柄の先に円筒状のブラシが据え付けられているので、握り直しや手首の返しなどの負担がなく、介助による歯磨きにも向きます。

■1260円 問い合わせ: コンビヘルネス (0120-414-333)

太っている部分がわかる

「カラダスキャン チェック」

体のどの部分が太っているのか、やせているのかを把握することができ、体重組成計。部分別筋肉率・体脂肪を測定できる。糖尿病や高血圧・心筋梗塞などの生活習慣病につながる肥満をチェックすることができます。

■問い合わせ: オムロンヘルスケア株式会社 (0120-300666)

アレルギーの赤ちゃんにも

「よいこになあれ かぼちゃちゅぷ」

小麦、大豆、卵など厚生労働省が定めた「アレルギー特定原材料等24品目」を一切使わずに作ったスナック。カボチャのほか、人参、玉ネギ、ホウレン草などを配合し、着色料や保存料、香料は無添加。生後7か月頃から食べられます。

(薬局で)

EVENT CALENDAR

■ 神戸・ひまわりの会

10周年記念講演会・シンポジウム
12月5日(日)
第1部 講演会:講師 柳田邦男氏
第2部 シンポジウム
会場:西山記念会館(神戸市)
問い合わせ先:078-642-0424
(日本ホスピス在宅ケア研究会事務局)

■ 特定非営利活動法人 MSキャビン

国立精神・神経センター神経研究所
免疫研究部
「多発性硬化症講演会・研究発表会」
12月25日(土)
会場:コクヨホール(東京都品川区)
問い合わせ先:03-3801-3552

■ ポリオの会

多喜靖美 音楽の宝箱
12月25日(土)
第1部 ピアノとバイオリンによる名曲
バイオリン:清水大貴 ピアノ:多喜靖美
第2部 お話とピアノ演奏による
「ヘンゼルとグレーテル」
朗読:宇野蘭之介 ピアノ:多喜靖美
会場:横浜ラポール1F ラポールシアター
問い合わせ先:049-253-4413
FAX 03-3872-7359

マネコとキネコの 情報ひろば

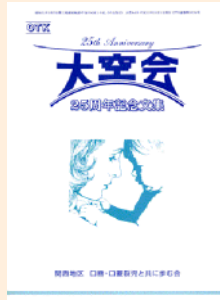


■ 大空会

(関西地区 口唇・口蓋裂児と共に歩む会)

● 書籍紹介

「25周年記念文集」(2003年11月発行1,000円)
仲間が大空会を通して
何を得たのか、どんな風
に分かち合っていたか
が、それぞれの体験談を
通してお分かりいた
けるでしょう。25年の歩
みも綴られています。



■ (社)やどかりの里

(精神障害をもつ人の支援活動を推進する団体)

● 書籍紹介

やどかりブックレット・障害者からのメッセージ・12
『私らしく生きる』

現在、役所の縦割り行
政のあたりを受けて、
障害者対策は知的、身
体、精神の3分野に分
割され、それぞれ違った
展開をえています。
背負った障害は異なっ
ていても、社会的に生活していく上で幾多の困難を抱えてい
る点では同様です。やどかり出版ではここ10年来、お互いを
知ると同時に、ともに社会へアピールしていく運動を地道に
続けてきています。本書は、2003年にさいたま市で開か
れた共同体験発表会をもとに企画・編集したものです。



■ (社)日本オストミー協会

ウェブサイトに情報追加
(社)日本オストミー協会のウェブサイトに「オストメイト対
応イレ検索機能」ができました。携帯電話のサイトでも利
用できます。
詳しくは、(社)日本オストミー協会のウェブサイトをご覧く
ださい。

<http://www.joa-net.org/>

著者 傅田ひろみ 辰村泰治 五十嵐良 大嶋仁
編者 やどかりブックレット編集委員会
定価 840円(税込価格)
初版発行 2004年8月

メッセージ

「交流会」が各地で開催されています。

各地で、ヘルスケア関連団体の交流会が盛んに行われるよう
になってきました。さまざまな会が集まることで、「私たちは
こんな取り組みをしている」という情報発信が行われ、互いに
刺激を受け、今までの活動に広がりが出てくるようです。
もちろん、現在抱えている問題の解決にもつながることも
あると思います。

当事者や家族、支援者など、同じような立場での情報交換は
気持ちの上で支えにもなり、また、「自分たちの活動が他の
会の活動につながることはうれしい」という声も聞こえます。
ヘルスケア関連団体の交流はスタートしたばかり。来年、再来
年へと、また、地域から全国へ、社会へとネットワークをとつな
げていきたいですね。



マネコ & キネコ

ヘルスケア関連団体ネットワークの
マスコットは、招き猫。人を招き、
ネットワークを広げようという意味が
込められています。『まねきねこ』の
マスコットのマネコ&キネコは、みな
さまの「声」が届くのを心待ちにして
います。よろしく、お願いいたします。

読者の声、募集中

「まねきねこ」は、読者のみなさまからの情報提供を歓迎
いたします。同封のアンケート用紙または、自由な形式で
ご意見や情報をお送りください。

まねきねこ 2004年秋号

発行:ファイザー株式会社

ペーシエント・リレーションズ室

「まねきねこ」はヘルスケア関連団体のネットワーク
づくりを支援するニュースレターです。

内容に関するお問い合わせは、ファイザー株式会社
ペーシエント・リレーションズ室までお願いします。

T15118589 東京都渋谷区代々木3-22-7
新宿文化クイントビル

電話 03(5309)6720

ファックス 03(5309)9004

メールアドレス chikako.kijima@japan.pfizer.com

情報提供、協力

